

ふれあいのまちづくりのための住民意識調査結果(A票:20~59歳)メモ

■調査の目的：住民の方が現在抱えている困りごとや将来に向かっての心配ごとを調査することによって明らかにし、みんなで解決し、住みよい地域づくりを進めていく

■調査対象：20歳から59歳の全世帯員

■調査方法：自治会配布・回収

■配布数：827票

■回収数/回収率：790票/95.5%

■実施時期：平成22年10月

■調査結果まとめ：

①「ひと」に関する現状

【回答者プロフィール】

- ・川合・宮脇・船山で回答の7割半(630/827)を占める。そのうち、川合で3割(254/827)、宮脇で2割半(226/827)、船山で2割弱(150/827)。
- ・家族に75歳以上の高齢者がいる世帯は4割強(87/202)。跡継ぎ(子ども)がいる世帯は7割弱(138/202)。

【結婚について】

- ・既婚の方は6割強(489/773)。女性に比べ男性で未婚の方が多く、30代で4割半(42/119)、40代で2割半(24/153)が未婚。
- ・未婚の方のうち、7割(146/207)の方は結婚の意志があるが、3割(61/207)の方は意志がない。20代・30代でも男女2割弱(26/136)の方が結婚する意志がない。
- ・3割強の未婚の方のうち、結婚後も上之保に住み続けたい方は2割強(39/181)であり、転出する方も2割強(41/181)、考えていない方が5割半(101/181)。男性は、30代で上之保に住み続けたい方が4割強(12/28)と他の年代に比べ高く、女性の20代・30代では、ほとんどの方が考えていないか転出する意向。

【今後の居住意向について】

- ・上之保に今後も住み続けたい方は5割強(365/696)で、その理由としては、父母等の面倒をみるため(3割半:139/372)、上之保がすき(3割弱:104/372)が多い。転出を考えている方は1割強(77/696)でその理由としては、仕事の関係(4割弱:31/82)や子どもの教育の関係(2割強:18/82)が多い。
- ・自分の子どもに上之保で暮らしてほしいという方は、1割半(91/639)と少ない。近隣市町を望む方は3割(192/639)、どこで生活してもよいという方が5割半(356/639)と多い。

②「仕事」に関する現状

【通勤について】

- ・ 8割半 (666/771) の方が働いており、そのうち上之保地内が3割 (228/771)、上之保除く関市内が3割 (225/771)、その他が2割半 (213/771) で、6割 (453/771) が市内で働いている。男性では、関市外で働いている方が約3割強 (129/389) で、女性では主婦などの働いていない方が2割弱 (73/382)。
- ・ 遠距離通勤の方 (回答者の約2割半 [213/771]) で通勤が困難になった場合については、上之保近隣で探す方が約2割強 (67/294)、まだ考えていない方が約6割強 (185/294)、仕事をやめる方が1割半 (42/294)。女性や40代、50代の方で遠距離通勤が困難になった場合、仕事をやめる意向の方が多い。

【耕作について】

- ・ 耕作をしている方は7割弱 (452/662)。そのうち水田・畑を耕作している方が6割半 (290/452)、畑作は3割強 (142/452)。
- ・ 自分が主として水田や畑作をしている方は2割強 (82/355) で、手伝い程度の方が6割強 (223/355) と多い。水田や畑を委託している方も1割半程度 (50/355) いる。

③「くらし」に関する現状

【地域でのつきあいについて】

- ・ 近所の方に気軽にあいさつをする方は、年齢・性別に関係なく8割半 (599/695) と多い。少数ではあるが、声かけをあまりしない・かかわりたくないが1割強 (96/695)。
- ・ 地域でのつきあい (消防・協同作業など) については、9割強 (638/695) の方が協力的であるが、そのうち3割弱 (188/638) の方は大切だと思いつつも負担に感じている。できるなら関わりたくない方や付き合わない方は1割 (57/695) に満たない。30代・40代の子育て世代の女性で、大切であるが負担に感じている方が多い。

④「まちづくり」に関する現状

【地域での支えあいについて】

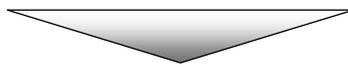
- ・緊急の送迎などボランティアに協力的な方は6割強（408/657）。特に30代男性や50代女性において意欲のある方が多い。

【イベントへの参加について】

- ・関市の市街地で開催されるイベントや行事に出かける方は4割半（320/683）であるが、上之保で開催されるイベントや行事へ出かける方は6割強（442/683）。上之保のイベント情報は、ポスターやチラシを見ている方が6割半（444/674）、他の人に聞いている方が3割強（210/674）。20代・30代は両親や知人など他の人から情報を入手しており、40代・50代ではポスターやチラシから情報を入手している。

【「ふれまち」について】

- ・「ふれまち推進委員」の認知度は、知っている方、知らない方が半数程度ずつ（知っている・名前だけ知っている：351/677）で、年齢が高くなるほど認知されている。知っている方で「ふれまち推進委員」の一員として協力したい方は1割強（44/339）で、協力したいが事情があり難しい方が5割強（181/339）。年齢が高くなるほど協力的な方が多い。



⑤「ひと」「仕事」「くらし」「まちづくり」に関する意見（課題）

- ・地域の人みんなが参加できる行事がない（花火大会、村民運動会、まつり、スポーツ大会）
- ・若い人が活躍できる場が少ない（若い人の声を聞く、若者の組織・事業が必要）
- ・定住人口を増やす（若い人・高齢者の働く場、土地・家を安く提供、田舎をテーマにブランド化〔不便なところがよい〕）
- ・働く場や新規産業の創出も必要だが、既存のもののPRが下手（林業や山を利用する、ゆず、アユ、B級グルメ、温泉）
- ・趣味等にできる講座教室がない（同好会、スポーツ）
- ・交通が不便（買物、病院、仕事）